

特集

生誕150年を迎えた遠野の偉人 伊能嘉矩と台湾

台湾人類学の第一人者で、今も台湾の人々から慕われる伊能嘉矩。生誕150年を迎え、伊能の「縁」を「絆」に変えるプロジェクトが本格化します。伊能嘉矩と台湾のこれからについて紹介します。

伊能嘉矩の功績

伊能嘉矩は江戸時代末期の慶応3年(1867年)、現在の遠野市東館町に生まれました。南部家に代々仕える学者の家系に育ち、幼い頃から勉学に励みます。27歳から学び始めた人類学を実践するため、明治28年(1895年)、日本統治下にあった台湾へ。台湾総督府で仕事をしながら、現地の様々な種族の言語・習慣・生活様式などを熱心に調査しました。明治39年に帰国するまでの10年間で、多くの論文を執筆。帰郷後

も研究を続け、台湾研究の集大成として世界的に評価されている『台湾文化志』をまとめました。

このほか、遠野の歴史と民俗の調査も行い『上閉伊郡志』『遠野史叢』なども執筆。さらに、明治42年(1909年)には、『遠野物語』の著者で遠野を訪れた柳田國男と対面。伊能は遠野の伝承などについて柳田に教え、同著の成立に大きな影響を与えています。

大正14年(1925年)、台湾で感染したマラリアが再発し、永眠(享年59歳)。翌年には、伊能の功績を後

台湾文化志

伊能の台湾研究の集大成。台湾研究の大著として、国際的に高く評価されている。



台湾文化志の直筆原稿

明治34年頃の伊能嘉矩



伊能嘉矩

台湾人類学の第一人者。慶応3年(1867年)に現在の遠野市東館町に生まれる。日本統治時代の台湾で、約10年間にわたり現地の先住民を調査・研究。帰郷後は『遠野物語』の成立にも影響を与え、日本民俗学の先駆的存在となる。大正14年(1925年)没。

台湾時代の伊能嘉矩

世に残すため、柳田を顧問とする「伊能先生記念郷土学会」が設立されています。

新渡戸稲造や後藤新平に並ぶ偉人

現在、伊能が収集した台湾に関するコレクションは、現地の有名校である国立台湾大学に大切に保管され、研究成果は台湾人類学の基礎となっています。伊能は、日本統治時代の偉人として、新渡戸稲造や後藤

新平と並び、今なお台湾の人々に慕われています。伊能の業績は、国と時代を超えて、ますます輝きを増しているのです。

伊能の縁を新たな交流のきっかけに

今年、伊能が誕生して150年の節目。市は、伊能の縁を台湾との新たな交流につなげるため、「遠野のもの・こころ海外交流プロジェクト」を展開しています。このプロジェクトでは、伊能を中心とした文化的交流や訪日外国人(インバウンド)の誘客、物産の流通など、「もの」「こころ」の両面による交流を推進。国の地方創生推進交付金を活用しています。

昨年10月には、市と教育文化振興財団、観光協会、商工会らで組織する「遠野のもの・こころ海外交流推進委員会」(会長・本田市長)を設立。プロジェクトを力強く進める、官民連携の体制を構築しました。

伊能嘉矩の縁を、新たな「絆」へ。

- 台湾での物産フェアの開催
- 台湾人旅行者向けの観光メニューや土産品などの開発

台湾(中華民国)

人口は約2,300万人。面積は日本の九州ほど。気候は北部が亜熱帯、南部が熱帯に属しており、夏は30度を超す蒸し暑い日が続く、日本と同様に台風による被害が多い。1895年～1945年は日本統治時代を経験。最近では日本文化が幅広く浸透し、親日感情は強い。

中国 台湾海峡



台湾

太平洋



観光

物産

文化

こころ

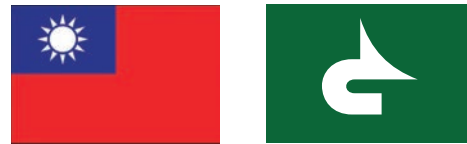
- 伊能を中心とした文化的交流
- 台湾人旅行者へのおもてなし体制の構築

台湾との交流促進策などについて検討する「遠野のもの・こころ海外交流推進委員会」のメンバーら





6_ 裕毛屋の謝明達社長(左)と協定を締結する本田市市長 7・8_台湾での流通事情を調査。日本の物産は台湾で人気があります 9_11月中には、謝社長が本市を訪れ商談会に出席。遠野の物産を販売することを決めています



これまでの経過

- H28年 5月 岩手県台湾訪問ミッションに、市職員5人を派遣
- 8月 地方創生推進交付金(約840万円)の交付が決定
- 10月 遠野のもの・こころ海外交流推進委員会発足
- 11月 遠野・台湾スーパーマーケット商談会を遠野で開催
- 同 市長が台湾でトップセールスを展開。台湾大学、現地の高級スーパー・裕毛屋と協定を締結
- 12月 「東北プロモーション in 台湾」へ市内観光関係者が出席

これからの予定

- H29年 2月 「岩手・遠野物産展 in 裕毛屋」を開催し、台湾にある裕毛屋の店内で遠野の物産を販売します
- 7月 伊能嘉矩生誕150年記念特別展
- 8月 遠野文化フォーラム・記念講演会
- 11月 国立台湾大学図書館共催「伊能嘉矩展」

物産

主催：遠野文化友の会

伊能嘉矩と台湾研究

伊能の足跡をたどり、伊能が情熱を捧げた台湾研究について解説する講座を開催します。受講無料で、どなたでも参加できます。

日時 1月21日(土)、15時15分～

場所 市立図書館視聴覚ホール

★同日開催「遠野学会」

同日13時半から、遠野学会を開催します。
①グループわらべ活動紹介②行山流湧水鹿蹄150年の軌跡③遠野緑峰高校ホップ和紙プロジェクト研究発表一を開催します。併せてご参加ください。

問い合わせ

市調査研究課(☎60-2800)

台湾との交流を深めることで、遠野を元気にしたいという思いが込められています。さまざまな交流促進策により▽伊能嘉矩を中心に遠野の文化的価値を高める▽遠野の物産を台湾で流通させる▽増加傾向にある台湾人旅行者を遠野に呼び込むことが目標です。

おもてなしが大切

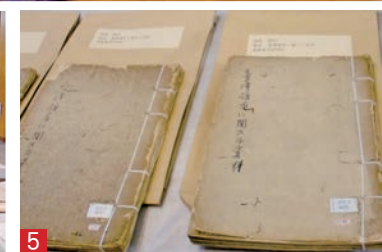
特に、岩手を訪れる台湾人旅行者は右肩上がり(右図)。釜石も会場となる2019年ラグビーワールドカップや2020年東京五輪まで、さらに増加すると見込まれています。このチャンスを生かすために、今後は、▽観光情報の発信強化▽観光案内板の外国語標記化▽外国人向けの土産品の開発ーなど、遠野の「おもてなし」も磨いていく予定です。

動き出した台湾交流ー。まずは、伊能嘉矩や台湾について、理解することから始めましょう。そして、伊能嘉矩の「縁」を台湾との太い「絆」に変え、「もの」と交流にしていきたいと思います。



文化

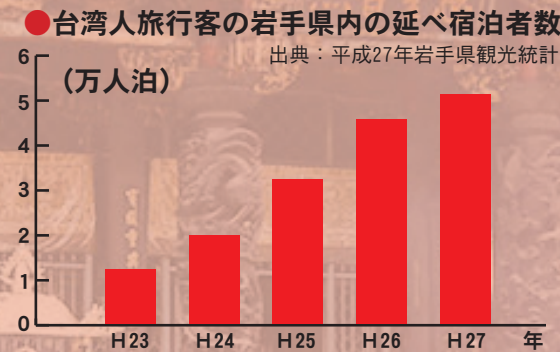
1_伊能嘉矩の研究者である、国史館の呉密察館長(左)に遠野文化フォーラムでの記念講演を依頼 2_台湾大学と協定を締結する本田市市長(右) 3_台湾大学の関係者らと友好を深めました 4・5_台湾大学には、伊能嘉矩直筆の研究資料などが大切に保管されていました



台湾との交流を遠野の元気に一。

本田市市長が台湾でトップセールス
プロジェクトの第1弾として、本田市市長は昨年11月中旬、4日間の日程で台湾を訪れ、トップセールスを展開。台湾大学や現地の高級スーパーなどを訪問し、今後の交流について協力を要請しました。
台湾大学とは、伊能嘉矩生誕150年に向けた文化交流の約束。同大と遠野市立博物館の両方で特別展

台湾との交流をチャンスに
「遠野のもの・こころ海外交流プロジェクト」には、台湾の市場流通調査の一環で訪れた、高級スーパー・裕毛屋では、謝明達社長と対面。地方創生の連携に関する協定を締結し、本年2月に同店で遠野の物産展などを開催することを約束しました。
文化と物産に加え、観光面でのプロジェクトも加速しています。12月初旬には、日本観光協会東北支部らが主催した台湾での商談会に、市内の観光関係者らが参加。30社を超える台湾の旅行会社と商談しました。その中で、複数社からアプローチがあり、本市を観光場所に盛り込む旅行商品について協議が始まっています。



台湾での商談会で、遠野の観光地をPRする市内の観光関係者ら

観光

